

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができるが、やや覇気に乏しい面がある。校内の指導体制は、分掌・年次の連携の下で、基本的な生活習慣及び学習習慣の確立を目指して、あいさつ運動や身だしなみ指導、週末課題や自習倶楽部における指導等が全校で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。	
①保護者のPTA活動や学校行事等への関心を高めたい。	②授業参観や授業公開を積極的にに行い、授業改善を推進していく。
③早い時期から進路意識を高め、主体的に学習に取り組ませたい。	④生徒の環境意識をさらに高め、清掃活動の徹底を図りたい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>2 部活動の充実</p> <p>3 家庭・地域社会、異校種の学校との連携強化</p> <p>4 教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標…「朝一番のさわやかあいさつ」 ・早く学校に来て、集中力を高めよう！ ・あいさつをして一日を気持ちよくすごそう！</p> <p>1年次目標 礼を尽くし、場を清め、時を守る ～人を思いやる心を持つ～</p> <p>2年次目標 自己確立 ～頼れる自分をつくり、将来を考えよう～</p> <p>3年次目標 何事も努力なくして勝利なし ～「目指す自分」になるために～</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
総務	○図書館利用の活性化	・ 図書館施設設備や蔵書の充実を図り、「学習・情報センター」としての役割を果たす。 ・ 「図書だより」や「読書ノート指導」などを通して、生徒の読書活動を支援するとともに、図書館利用の増大を図る。	4: 図書館の年間のべ利用者数が2,000人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 3: 図書館の年間のべ利用者数が1,500人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 2: 図書館の年間のべ利用者数が1,000人程度で、「図書だより」は毎月発行できた。 1: 図書館の年間のべ利用者数が1,000人を大きく下回り、「図書だより」を毎月発行することができなかった。	4	最近の高校生時間の使い方は多岐にわたり、読書習慣が身に付いている者は減少傾向にあるように思われるが、授業での活用や自主学習、雑誌閲覧やパソコン検索等の利用者は、のべ2,000人以上を達成した。また、「図書だより」も毎月発行できた。夏休み前の「図書だより」は通常の教室掲示ではなく、全員に配付したが、その際、裏面に全国の各大学等が募集している各種コンクールの要項をピックアップして紹介したところ、詳細情報の問い合わせに来た生徒もいた。今後長期休業中の、自主的活動を促すような働きかけをしていきたい。なお、本年度も昨年同様、長南地区の読書会への参加、全校一斉のブックトークによる読書指導に加え、今年度は生徒同士の薦めの本を紹介しあう、「読書の樹」を各年次毎に制作して読書週間の時期に掲示した。また、今回初めて長南地区の「ブックライブ」への参加もあつた。読書感想文コンクールでは地区審査を経て、県審査への出品を果たした。読書ノートコンクールは応募も国語科の協力を得て、年間10冊以上を讀んで、作品への感想や自分の考えを記録した生徒が一枚からの応募限度いっぱい10名を超えた。今後も新たな試みを取り入れていきたい。			
	○保護者との連携活動の強化	・ 保護者のPTA活動や学校行事に対する理解を深め、積極的な参加を促す。また、これらの活動を通して、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるように、保護者と学校との連携をさらに深める。	4: PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、各活動に対する理解が十分深まり、保護者と学校との連携も大変充実した。 3: PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、各活動に対する理解がかなり深まり、保護者と学校との連携も充実した。 2: PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、各活動に対する理解はあまり深まらず、保護者と学校との連携も不十分であった。 1: PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、各活動が不調であり、保護者と学校との連携は不十分であった。	3	PTA総会は、ここ数年休日のほうが参加率が上がるのではという考えのもとで、5月の土曜日に開催して。今年度の参加率は18.9% (昨年度20%、一昨年度18.3%)であった。また、総会後に引き続き行われる各年次集会への出席は23.7% (昨年度25%、一昨年度26%)とわずかながら減少した。これからはPTA役員等の意見も取り入れ、出席率が上がるよう取り組んでいきたい。 年間を通して、学校行事やPTA関連の各種行事・会議などを実施しているが、講演会(演奏会)等には、毎回少数ではあるが保護者の参加がある。明日祭祭へのパザー参加については、PTA役員の熱心な働きかけによって、多数の評議員の積極的な参加もあり盛況だった。収益は生徒会に寄付している。3年目になるPTA学校見学者も教職員合わせて14名の参加でも充実したもとなった。また6月と12月には東新川駅のボランティア清掃活動を開催し、ともに10名程度の参加があった。今後はこれらの成果を足がかりに、様々な場面を通して保護者との連携を深める工夫をしていきたい。		・ 読書習慣を身に付けさせることは大切なことである。活字離れが多い今の高校生にとって成果がすぐに現れることはないが、読書コンクールへの参加を増やすなど、読むことへの学校側からの様々な手段での継続的な取組をお願いしたい。 ・ PTA活動への参加を促すには、積極的に情報発信を行い、まず学校に関心を持ってもらうことが大切だ。PTA役員との協力も良かられており、今後ともPTA役員と連絡を密にし、取り組んでいただきたい。 ・ ホームページの更新・充実を図り、保護者との連携をより進めたい。	A
教務	○課題学習を中心とした基礎基本の徹底	・ 国語、数学、英語の3教科を中心に、年間を通じて定期的に課題を与え提出させることを計画し、また、課題の取組を積極的に評価に組み込むことにより、家庭学習の定着を図り学力の充実を図る。	4: 年間を通じて真面目に課題に取り組んだ生徒の割合が90%以上であった。 3: 年間を通じて真面目に課題に取り組んだ生徒の割合が75%から90%であった。 2: 年間を通じて真面目に課題に取り組んだ生徒の割合が50%から75%であった。 1: 年間を通じて真面目に課題に取り組んだ生徒の割合が50%に満たなかった。	3	生徒アンケートの中の「週末などに出される課題には積極的に取り組んだ。」では、「よくあてはまる」が55.6%、「ややあてはまる」が34.3%、「あまりあてはまらない」が7.7%、「全くあてはまらない」が2.4%という結果だった。数字的には「あてはまる」と「ややあてはまる」で約90%になるが、取り組みの成果という点ではそれほど高い点はずげられない。なぜなら、ただ単に空白を埋めただけで達成感のように思われ、自分で解く努力をしないですぐ解答を見たり、友だちの答えを写したりするなど、実力をつけることにつながらない傾向の生徒が多いように思われる。家庭学習の定着と学力の充実という観点からすれば、この傾向にある生徒に、本来の家庭学習や課題学習の意義とともに、日々の努力を重ねることで学力を充実させ自分の進路を切り開く大切さを教える必要がある。教員側も提出された課題の効率的かつ効果的なチェック方法の確立と、3年間を見通した学習目標の設定と各年次・各時期の学習内容を考慮した課題内容の精選をし、育てたい生徒像と身に付けさせたい学力をきめ細やかに設定することを来年度は試みたい。		・ 生徒によって個人差があるため、生徒一人ひとりにあわせて目標設定を行い、個別指導などにより達成感を持たせてほしい。 ・ 家庭の協力も大切であり、家庭と連携して、継続的な取組をお願いしたい。 ・ 欠席が majority 少ないことは、生徒の高校生活が意欲的であることがうかがえる。	
	○学習指導の改善と充実	・ 積極的に授業を参観(異校種を含む)または公開し、研究協議等を行うことにより、生徒理解や授業方法・技術の交流・共有を進め、授業改善を図る。	4: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が90%以上であった。 3: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が75から90%であった。 2: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が50から75%であった。 1: 授業参観や授業公開および研究協議等を含めて3回以上実施した教員の割合が50%に満たなかった。	4	本校での初任者研修や随時的な任用教員研修により各教科が研究授業や研究協議を重ねるとともに、小学校・中学校・高等学校の公開授業などにも多数の先生が意欲的に参加し、生徒理解や授業方法などの交流・共有を進めていった。学校としてこのような研究協議をすることが大切であり、強制的にでも参加せざるを得ない状況を作るとは、多忙な教員にとっては授業改善のきっかけにもなるので、来年度もこのような機会を設定していきたい。理想としては、各教科が1週間1回程度何らかの形で情報の共有や授業改善のための話し合いができることが理想なので、来年度の時間割作成でそのような時間が取れる努力をしたい。また、上の項目で述べたように、3年間を見通した学習目標の設定と各年次・各時期の学習内容や指導方法を考えることも必要に思われるので、教科会議を積極的に開催するための方法として、本来の意味でのPDCAサイクルを進めるために、計画と実践だけでなくチェックと改善するための行動の取り組みの様子を一定の様式で提出してもらいたいと考えている。仕事が増えるだけのように思われるが、業務改善のために努力をすれば業務の取捨選択と効率・能率性の追求ができるのではないだろうか。		・ PDCAサイクルを機能させ、学習指導に生かしていくためには、参観や協議の回数を増やすのではなく、1回1回に時間をかけ、吟味し議論し合うことが重要と考える。 ・ 学習指導における更なるレベルアップをお願いしたい。	B

生徒指導	○基本的生活習慣の自立的確立	・身だしなみ指導と朝の立ち番指導を通して、生徒の自覚的な生活習慣の確立を図る。	4.身だしなみ指導と立ち番指導が毎月及び毎日実施され、全教職員の協力による指導が図られた。 3.身だしなみ指導と立ち番指導が学期1回及び週1回程度実施され、全教職員の協力による指導もほぼ図られた。 2.身だしなみ指導と立ち番指導が年1回及び月1回程度しか実施されず、全教職員の協力体制が不十分であった。 1.身だしなみ指導も立ち番指導も全く不十分であった。	3	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎日の朝の立ち番指導、休みの校内巡視、定期的な実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。検討課題としてきた、朝の立ち番指導の中での「あいさつ運動」の成果をさらに上げていくため、生徒会による自主的な活動も多く取り入れることができた。 また、生徒や保護者のアンケート結果において、「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いている。」の内容に対して9割が「あてはまる」との回答があった。特に、生徒の意識が高まっている。今後も、指導してきた内容と生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図っていきたい。	・身だしなみの大切さについてきちんと教えていたという点など、基本的生活習慣の自立的確立について、真摯な取組の成果がでていられる。好感度の持てる生徒をよく見かける。 ・部活動の充実を期待したい。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会や各クラスで学校行事(明日葉祭・体育大会・クラスマッチ・生徒総会等)に積極的、主体的に参加する。	4.生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られた。 3.生徒会を中心に各行事ともクラスで行われた。 2.行事によっては活動が不十分であった。 1.クラスの活動が積極的ではなかった。	4	生徒会を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。来年度も生徒の当事者性・主体性を高めていくために各種委員会活動の充実を図っていきたい。 学校行事への積極的な参加については生徒・保護者それぞれのアンケートでも約9割の良い評価を得ており、生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。	・特別活動への主体的参加の推進については、生徒会・家庭と協力して地道に行うしかないと考えている。	
進路指導	○進路実現のための実力養成	・生徒の希望進路実現に必要な実力養成のために、特に自習室・自習倶楽部の効果的な指導を図る。	4.自習倶楽部・自習室参加者の実力が向上し、効果が認められた。 3.自習倶楽部・自習室利用が計画的に行われた。 2.自習倶楽部・自習室は利用したが、効果が不十分であった。 1.自習倶楽部・自習室の効果的な活用ができなかった。	3	自習倶楽部においては、部員は昨年度22名、本年度は11名と半減した。部員の減少は残念であったが、昨年度に比べ学習態度は至極良好で、この活動を基盤に進路実現に向けて努力を継続し成果を果らせることができた。夏季休業中の学習実施400時間チャレンジでは8/(22)名、センター試験に向け実施した300時間チャレンジでは6/(19)名達成した。年度末には進路アンケートや自習倶楽部アンケート等を実施し生徒一人ひとりが進路実現を果たせるようしっかり総括し、次年度の運営につなげていきたい。 自習室の利用については、放課後、土曜日ともに例年並みの利用者数であった。放課後においては調査発表・調査期間以外は1・2年生の利用が少ないこと、土曜日の利用者が平均7.1(昨年度6.9)名程度であることに、更に運営方法を工夫し参加者を増やしていきたい。	・国公立大学合格者が増えていることは喜ばしいことである。今後とも全体のレベルアップを図っていただきたい。 ・一人で勉強するより、友人と勉強の方が良い人かとも思っている。自習室のPRをもっと行われてはどうかだろうか。 ・生徒のモチベーションをいかに上げて行くには、将来の夢をしっかり持たせ、自己教育を育み、キャリア教育を充実することが大切である。勤務先で協力できることがあれば、協力する。	B
	○キャリア教育を通して進路意識向上のための計画的指導の推進	・総合的な学習の時間を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4.アンケートで「役立った」との回答が概ね8割以上であった。 3.アンケートで「役立った」との回答が概ね6割以上であった。 2.アンケートで「役立った」との回答が概ね4割以上であった。 1.アンケートで「役立った」との回答が概ね4割未満であった。	3	生徒アンケートでは肯定的回答が85%、保護者アンケートでは肯定的回答が86%で、概ね高い評価を受けている。1年次の上級学校見学から始まり、学校等調査研究・発表、職業人講話、出張講義、小論文指導・講演、3年次での志望理由書書き方指導・講演、面接練習等に至る、系統的・継続的な進路研究は、進路について考える機会として有効であったと思われる。今後、高まった進路意識をもとに、自己実現のために必要な学習への意欲向上と真の実力養成に効果的につなげることが課題である。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任、校内コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアの必要な生徒の早期発見・早期対応に努め、相談活動の充実を図る。	4.心身のケアの必要な生徒への連携した機敏な対応と共に、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3.心身のケアの必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2.心身のケアの必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1.心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	精神面でケアが必要な生徒の早期発見のため各学期に「不安や悩みについてのアンケート」(いじめに関するアンケート)「教育相談アンケート」を実施した。また、その結果を集計分析し、必要に応じてスクールカウンセラーを中心に適宜ケース会議を行った。そのため、ケアの必要な生徒への早期対応がスムーズに行われた。また、身体的理由において学校生活でサポートが必要な生徒に対しても学期ごとにケース会議をおこない学校全体での生徒支援を行った。	・教職員がしっかり指導しているため、生徒が安心してできていると考えられる。更に、生徒の心のケア、サポートをお願いしたい。 ・いじめに関しては、早期発見と生徒一人ひとりの見守りをお願いしたい。	A
	○学習環境の整備	・ゴミの減量化とともに清掃活動の徹底を図り、花壇づくりや校内美化に努め、学習環境を整備する。	4.清掃活動その他の美化活動が計画通りに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3.清掃活動その他の美化活動がほぼ計画通りに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2.清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1.計画のみにとどまった。	3	生徒の自主性を高めるために清掃時間に生徒環境委員の巡視を実施し、清掃状況の把握と清掃活動の徹底を図った。花壇・外庭では環境委員をはじめ掃除当番の生徒が良く活動した。特に除草については春秋2回の土作りから苗の植え付け、水やり、除草などを行い、とても美しい花を咲かせることで環境意識も高めることができた。清掃活動については決められたことは自分が自分から率先して活動する生徒はまだ少ない。トイレや階段・廊下の隅など不十分なところが時々見られる。生徒の自主性を高め一層校内の美化を図りたい。	・社会は理不尽なことばかりである。耐える力を養っていただきたい。 ・心身共に健康である高校生活を送れるよう、一層の環境作りをお願いしたい。	
業務改善	学校の組織等		4.委員会で活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実が大きい期待できる。 3.委員会で活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がかなり期待できる。 2.委員会での活動が中途半端に終わり、教育活動の充実があまり期待できない。 1.委員会での活動が行われなかった。	3	宇部中央高校将来構想検討委員会を立ち上げ、「入学時の夢の実現を目指す」ことを改革の理念として、11月までに6回会議を開き、職員会議において「各教科の特性に応じて3年間の指導体制を整え、身に付けさせるべき学力を明確にし、厳しく鍛える授業や課題・小テストなどを通して、更に生徒の学力を高めていく」とともに、生徒の進路実現を図っていくことを今後の方針とすることを提案し、共通理解がなされた。	・業務改善も大切であるが、教職員が動きやすい職場環境を作ることが最も大切だと考える。 ・事故のないよう、インフラの点検も欠かせないようしていただきたい。 ・大変ご苦労であるが、よろしく願っています。	B
	○機能的な校内組織の整備	・学校運営に関する委員会を立ち上げ、教育活動の充実を図る。					
	○日常的な業務	・学習指導、生徒指導等に関する諸規定を整備する。	4.諸規定が大きい整備された。 3.諸規定がかなり整備された。 2.諸規定があまり整備されなかった。 1.諸規定に手をつけられなかった。	3	各分掌において諸規定の見直しを行っている。また、『いじめ防止基本方針』、『危機管理マニュアル』の改定、『生徒の「被害のおそれ」に対する早期対応の指針』の策定など行うとともに校内研修会を実施した。		
	○勤務状況	・業務分担の均等化を通して勤務状況の改善を図る。	4.大いに改善が図られた。 3.かなり改善が図られた。 2.あまり改善が図られなかった。 1.全く改善が図られなかった。	2	人事交流で業務分担も変わる中で、時間とともに分母もでき、均衡化が図られている一方、時間外勤務も日常的であり、さらなる勤務状況の改善に取り組んでいく必要がある。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
【成果】	①教職員の前向きな活動が、生徒の安心と向上につながっている。(学校評議員からの意見) ②これまでの取組に加え、読書ノートコンクールへの応募やブックライフへの参加などの新たな試みも取り入れることにより、読書活動の充実が図られた。また、PTA役員と連携した各種行事を通して、学校へ関心を持つ保護者が増加した。						
	③初任者研修、臨時的任用教員研修による研究授業、異校種における授業参観の実施などにより、授業改善が図られている。 ④いじめ対策委員会やSCを活用することなどにより、安心・安全な学校づくりが図られている。あいさつ運動、身だしなみ指導等も適切に行われている。 ⑤「上級学校見学」、「職業人講話」、「出張講義」などを通してキャリア教育が計画的に行われ、進路意識の醸成が図られている。 ⑥花壇づくりや環境委員を中心とした生徒による校内美化運動が推進され、生徒の自主性が育っている。						
【課題】	①ホームページの更新・充実などにより積極的に情報発信を行い、保護者のPTA活動への参加を促していく必要がある。 ②授業改善に向けて、効果的に授業参観や研究協議を実施していく必要がある。 ③進路意識の醸成を、自己実現のために必要な学習への意欲向上と真の実力養成に効果的につなげていく必要がある。 ④生徒の環境意識をさらに高め、清掃活動の徹底を図る必要がある。 ⑤機能的な校内組織を整備するとともに業務の効率化と業務分担の均衡化を、さらに進めていく必要がある。						
	7 次年度への改善策						
①PTA役員との連携を更に密にするとともに積極的に情報発信を行い、保護者の学校への関心を高め、PTA活動への参加を促していく。 ②授業アンケート、授業研究を有効に活用し、PDCAサイクルを回し、授業研究を進めていく。 ③各教科の特性に応じて、3年間の指導体制を整え、身に付けさせるべき学力を明確にし、厳しく鍛える授業や課題・小テストなどを通して、更に生徒の学力を高めていく。また、総合的な学習の時間の更なる充実などにより、生徒の進路意識を向上させる。 ④今年度引き続き、アンケートや対策委員会の有効活用により、全校体制でいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、生徒の主体的な活動を通して、美化・清掃活動の徹底を図っていく。 ⑤各種業務において、さらにPDCAサイクルを回して業務改善に取り組んでいく。							